

「教育サービス面における社会貢献」評価報告書

(平成12年度着手 全学テーマ別評価)

富山医科薬科大学

平成14年3月

大学評価・学位授与機構

大学評価・学位授与機構が行う大学評価

大学評価・学位授与機構が行う大学評価について

1 評価の目的

大学評価・学位授与機構（以下「機構」）が実施する評価は、大学及び大学共同利用機関（以下「大学等」）が競争的環境の中で個性が輝く機関として一層発展するよう、大学等の教育研究活動等の状況や成果を多面的に評価することにより、その教育研究活動等の改善に役立てるとともに、評価結果を社会に公表することにより、公共的機関としての大学等の諸活動について、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくことを目的としている。

2 評価の区分

機構の実施する評価は、平成 14 年度中の着手までを段階的実施(試行)期間としており、今回報告する平成 12 年度着手分については、以下の 3 区分で、記載のテーマ及び分野で実施した。

全学テーマ別評価（「教育サービス面における社会貢献」）

分野別教育評価（「理学系」、「医学系（医学）」）

分野別研究評価（「理学系」、「医学系（医学）」）

3 目的及び目標に即した評価

機構の実施する評価は、大学等の個性や特色が十二分に発揮できるよう、当該大学等の設定した目的及び目標に即して行うことを基本原則としている。そのため、大学等の設置の趣旨、歴史や伝統、人的・物的条件、地理的条件、将来計画などを考慮して、明確かつ具体的な目的及び目標が設定されることを前提とした。

全学テーマ別評価「教育サービス面における社会貢献」について

1 評価の対象

本テーマでは、大学等が行っている教育面での社会貢献活動のうち、正規の課程に在籍する学生以外の者に対する教育活動及び学習機会の提供について、全機関的組織で行われている活動及び全機関的な方針の下に学部やその他の部局で行われている活動を対象とした。

対象機関は、設置者（文部科学省）から要請のあった、国立大学（政策研究大学院大学及び短期大学を除く 98 大学）及び大学共同利用機関（総合地球環境学研究所を除く 14 機関）とした。

各大学等における本テーマに関する活動の「とらえ方」、「目的及び目標」及び「具体的な取組の現状」については、「教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標」に掲げている。

2 評価の内容・方法

評価は、大学等の現在の活動状況について、過去 5 年間の状況の分析を通じて、次の 3 項目の項目別評価によ

り実施した。

- 1) 目的及び目標を達成するための取組
- 2) 目的及び目標の達成状況
- 3) 改善のためのシステム

3 評価のプロセス

大学等においては、機構の示す要項に基づき自己評価を行い、自己評価書（根拠となる資料・データを含む。）を機構に提出した。

機構においては、専門委員会の下に、専門委員会委員及び評価員による評価チームを編成し、自己評価書の書面調査及びヒアリングの結果を踏まえて評価を行い、その結果を専門委員会で取りまとめた上、大学評価委員会で評価結果を決定した。

機構は、評価結果に対する意見の申立ての機会を設け、申立てがあった大学等について、大学評価委員会において最終的な評価結果を確定した。

4 本報告書の内容

「対象機関の現況」及び「教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標」は、当該大学等から提出された自己評価書から転載している。

「評価結果」は、評価項目ごとに、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として記述している。

また、「貢献（達成又は機能）の状況（水準）」として、以下の 4 種類の「水準を分かりやすく示す記述」を用いている。

- ・十分に貢献（達成又は機能）している。
- ・おおむね貢献（達成又は機能）しているが、改善の余地もある。
- ・ある程度貢献（達成又は機能）しているが、改善の必要がある。
- ・貢献しておらず（達成又は整備が不十分であり）、大幅な改善の必要がある。

なお、これらの水準は、当該大学等の設定した目的及び目標に対するものであり、相対比較することは意味を持たない。

また、総合的評価については、各評価項目を通じた事柄や全体を見たときに指摘できる事柄について評価を行うこととしていたが、この評価に該当する事柄が得られなかったため、総合的評価としての記述は行わないこととした。

「評価結果の概要」は、評価結果を要約して示している。

「意見の申立て及びその対応」は、評価結果に対する意見の申立てがあった大学等について、その内容とそれへの対応を示している。

5 本報告書の公表

本報告書は、大学等及びその設置者に提供するとともに、広く社会に公表している。

対象機関の現況

1) 機関名及び所在地

富山医科薬科大学
富山県富山市杉谷 2630 番地

2) 沿革と理念

富山医科薬科大学（以下、本学）は、既存の富山大学薬学部と同大学和漢薬研究所及び新設の医学部を母体として昭和 50 年 10 月 1 日に設置された。平成 5 年には 4 年制の看護学科が医学部に新設され、2 学部 3 学科・1 研究所・1 附属病院の構成となり今日に至っている。

本学の特色は 3 つの視野からとらえることができる。一つには前述の構成自体である。二つには、近代西洋医学と富山の地で育まれた和漢薬を中心とした東洋医学を融合した医薬一体の総合治療学の創設を目指す構造になっていることである。そして三つには、少子高齢化・情報化・環境破壊など時代の激変に対応すべき健康医学を視野に入れていることである。いわば総合的医療・保健大学として位置づけることができるのである。本学の建学の理念は「真に医と薬との一体的総合的教育研究を推進し、東西両医学を融合した新しい医学、薬学の基礎を確立し、人類の福祉に貢献するとともに、地域医療の充実に寄与する」とされ、創設記念碑にある「里仁為美」という言葉に集約されている。この言葉は、「人間性豊かで心技ともに優れた医療人を養成し、信頼され心の通い合う医療活動を行う」という精神のあり方を表している、と主体的に理解される。この理念のもとに本学は次の 3 つの項目を目標として掲げている。

慈愛の精神に溢れ、高い技術力を備えた医療人の育成
命の尊厳を守り、共生の精神に基づいた地域及び国際社会への貢献
国際レベルでの先端的かつ独創的な医薬学研究的の推進

3) 学部・研究科等構成

学部

医学部（医学科 28 講座，看護学科 3 講座）
薬学部（薬科学科 7 講座）
学科目（14 学科目，医学部・薬学部に分属）
大学院

医学系研究科（修士課程 1 専攻，博士課程 4 専攻）
薬学研究科（博士課程 2 専攻）
大学附置研究所

和漢薬研究所（6 部門，客員部門 1 部門，寄附部門 1 部門）

大学附属施設

附属病院（17 診療科，中央診療施設 11 部門，特殊診療施設 5 部門，薬剤部，看護部）

附属図書館

保健管理センター

学部等附属施設

薬学部附属薬用植物園，和漢薬研究所附属薬効解析センター

学内共同教育研究施設

実験実習機器センター，動物実験センター，遺伝子実験施設

その他の施設

放射性同位元素実験施設，情報処理センター，先進医薬共同開発推進センター

4) 教育サービスを行っている附属施設

特別には設置していない。

5) 学部学生数（平成 13 年 5 月 1 日在籍者数）

医学部医学科 584 名，看護学科 261 名 計 845 名
薬学部薬科学科 444 名
合計 1,289 名

6) 学部等の教員数（平成 13 年 5 月 1 日現在）

<表 1> のとおり

<表 1> 学部等の教員数

	学 長	副学長	教 授	助 教 授	講 師	助 手	計
学 長	1						1 名
副学長		2					2 名
医学部			49	34	8	89	180 名
薬学部			15	19	6	16	56 名
薬学研究科			2	2		1	5 名
和漢薬研究			6	6		7	19 名
附属病院ほか			2	10	33	57	102 名
計	1	2	74	71	47	170	365 名

教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標

1. 教育サービス面における社会貢献に関する考え方

(1) 教育サービス面における社会貢献の必要性

本学の本来的な社会貢献は、前述の建学の理念にかかわる3項目の目標に示されている。すなわち 医療人の育成、命にかかわる貢献（狭義には医療）、医薬学研究、である。

ところで、現在はこれら本来的な目的を追求するだけでは、その本来の目的を達成すること自体が難しい時代であることを認識しなければならない。それを支える医療・保健・福祉にかかわる重層的な教育サービスを介して、さらに地域に開かれた大学として発展することが求められている。その理由は次の3つである。

疾病構造の変貌：

生活習慣病の増加、新興・再興感染症の台頭、メンタルヘルスの重大化、など疾病構造が変化し、さらに少子高齢化が急速に進んでおり、住民の健康水準向上のためには、治療医学と予防医学とがより緊密に連動する必要性に迫られていること。またこれらは、もろもろの非健康状態、疾病を生み出す土壌、すなわち環境（自然環境ならびに社会環境）そのものを見据えなければその解決が困難であり、そのためには一般市民の、健康と疾患についての医学・薬学・看護学、さらには環境問題をも含めた総合的な保健・健康医学にかかわる深い理解が必要であること。

専門家の生涯教育：

医学・薬学・看護学にかかわる科学の進歩は急速であり、専門家の生涯教育に関する責任が大きくなりがちで大学に課せられていること。また、本学の特性を生かして、薬業との連携を追求すべきであること。

富山医科薬科大学と同附属病院に対する信頼：

あらゆる機会に、あらゆる層に対し、教育サービスを通して、本学と同附属病院に対する理解と信頼を求めること。

(2) 教育サービスの社会的ニーズ

教育サービスに関する社会的ニーズは多岐にわたるが次のようにまとめることができる。

* 専門家との連携

・ 医学、薬学、看護学の各分野からのニーズに応えた生涯教育などに関わるもの

* 一般市民（企業関係、各種学校を含む）

・ がんなど生活習慣病の予防と治療に関する知識
・ 感染症などその他疾患に関する知識

- ・ 老年学に関する諸問題
- ・ 医薬品・和漢薬に関する知識
- ・ 介護・看護に関する知識と技能
- ・ 企業関係などの資格取得に関する講習・研修
- ・ 環境問題

本学は、医学部医学科・看護学科と薬学部薬科学科、そして和漢薬研究所で構成され、他大学に類をみない和漢診療部をそなえた大学附属病院をもつ医療人育成のための複合体である。多彩な専門領域での活動が展開され、最先端の施設も整備されており、上記のニーズに十分応えられる態勢にある。また、応える努力をとおして、さらに本学の水準を向上させていくことも期待される。

（具体的な教育サービス面における社会貢献活動については、<表2>参照）

2. 教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標

(1) 目的と目標

A) 目的

本学のすべてのマンパワーと社会資源を駆使した医学・薬学・看護学に関する社会教育をとおして、富山県の健康水準の向上に貢献することを目的とする。表においては「心身の健康に関わる知識の深化と行動の変容を援助し、いのち輝く社会の実現を目指す」とした。

B) 目標

各分野にわたるニーズに応じて教育サービスを提供することが目標となる。目標は教育サービスの受け手によりいくつか整理できるが、専門職を対象とした、「目標1：専門家：専門職への貢献」と、一般市民を対象とした「目標2：市民：ニーズを汲み上げ教育サービスを計画するとともに、要請に応える」とした。目標2はさらに「目標2-a：医・薬・看護学（専門と略称）」と「目標2-b：健康関連諸課題（健康と略称）」とに分類した。目標2-aは、主に医・薬・看護学に関する専門的な内容についての教育サービスである。目標2-bは、健康医学・環境問題・労働衛生など学際的課題に関するニーズに応えようとするものである。

(2) 教育サービスの体系

教育サービスについては、さらに実施主体側からの分類も必要である。ここでは次の4つの項目に分けた。

A：全学的規模で行うもの（「全学」と略称）；大学の方針として計画するもの

- B：学部・学科・施設などが行うもの(「学部」と略称)；
学部・学科・施設などが計画，実施するもの
C：講座・学科目で行うもの(「講座」と略称)；講座・
学科目が計画，実施するもの
D：個人が独自に行うもの(「個人」と略称)；本学以外
の組織が主催する事業に個人の形で協力するもの

目的・目標・対象の項目と実施主体の項目とを組み合わせることにより，次に示すような 12 のカテゴリーが作られる(＜表 2＞参照)。すなわちこれらは，実施主体を加味した教育サービスの内容による分類となる。

- 1.カテゴリー a：全学・専門家；大学として専門家を対象にした計画
- 2.カテゴリー b：学部・専門家；学部・学科・施設が専門家を対象にした計画
- 3.カテゴリー c：講座・専門家；講座・学科目が専門家を対象にした計画
- 4.カテゴリー d：個人・専門家；大学の構成員が専門家を対象とした学外の計画に協力するもの
- 5.カテゴリー e：全学・市民・専門；大学として一般市民を対象にした専門的な内容の計画
- 6.カテゴリー f：学部・市民・専門；学部・学科・施設が一般市民を対象にした専門的な内容の計画

- 7.カテゴリー g：講座・市民・専門；講座・学科目が一般市民を対象にした専門的な内容の計画
- 8.カテゴリー h：個人・市民・専門；大学の構成員が一般市民を対象にした専門的な内容の学外の計画に協力するもの
- 9.カテゴリー i：全学・市民・健康；大学として一般市民を対象にした健康関連諸課題に関する計画
- 10.カテゴリー j：学部・市民・健康；学部・学科・施設が一般市民を対象にした健康関連諸課題に関する計画
- 11.カテゴリー k：講座・市民・健康；講座・学科目が一般市民を対象にした健康関連諸課題に関する計画
- 12.カテゴリー l：個人・市民・健康；大学の構成員が一般市民を対象にした健康関連諸課題に関する学外の計画に協力するもの

以上をまとめると，本学は，学部・学科・施設，講座・学科目が実施するもの，さらには個人レベルで対応するものについても支援・奨励・認知などを行うことにより，「教育サービスの面における社会貢献」にかかわる全カテゴリーを，大学全体の有機的な体系として位置付ける。

＜表 2＞ 富山医科薬科大学の教育サービスによる社会貢献の目的と目標ならびに諸活動

目的・目標・対象 実施主体	目的：心身の健康に関わる知識の深化と行動の変容を援助し，いのち輝く社会の実現を目指す		
	目標：富山医科薬科大学のマンパワーと資源を活用して地域社会のニーズに応える		
	目標 1 専門家：専門職への貢献	目標 2 市民：ニーズを汲み上げ教育サービスを計画するとともに，要請に応える	
		目標 2-a 医・薬・看護学(専門)	目標 2-b 健康関連諸課題(健康)
A 全学規模(全学) 大学として計画	カテゴリー a： 全学・専門家 例 ・リカレント教育講座，など 4 件	カテゴリー e： 全学・市民・専門 例 ・公開講座(健やかに生きる ために)，など 5 件	カテゴリー i： 全学・市民・健康 例 ・大学等地域開放特別事業， など 3 件
B 学部・学科・施設など (学部) 大学として計画または支援・奨励	カテゴリー b： 学部・専門家 例 ・受託実習生の受け入れ，な ど 5 件	カテゴリー f： 学部・市民・専門 例 一日体験入学など 4 件	カテゴリー j： 学部・市民・健康 例 ・データベース公開，など 2 件
C 講座・学科目(講座) 大学として支援・奨励	カテゴリー c： 講座・専門家 例 ・研究会，セミナー，公開講 座，など 70 件	カテゴリー g： 講座・市民・専門 例 ・セミナー，公開講座，など 14 件	カテゴリー k： 講座・市民・健康 例 ・公開講座，患者会，など 21 件
D 個人(個人) ・本学以外の組織が主催 する事業に協力する ・大学として認知・奨励	カテゴリー d： 個人・専門家 例 医師会など専門組織の依頼に よる，各講座スタッフの講演 など 221 件	カテゴリー h： 個人・市民・専門 例 各種組織などからの依頼に応 じた，各講座スタッフの専門 的な講演研修会など 133 件	カテゴリー l： 個人・市民・健康 例 各種組織などからの依頼によ る，環境問題，労働衛生，そ の他健康にかかわる諸問題に ついての講演研修会など 124 件

3. 教育サービス面における社会貢献に関する取組の現状

過去5年間の教育サービス面における社会貢献についての報告書を作成するに当たって、2つの方法で資料を求めた。

事務局で把握している資料で、大学規模(A)ならびに学部・学科・施設関係(B)のもの。

講座・学科目等に対し過去5年間に実施した対社会的教育サービスについてのアンケートによるもの。この集計したものを講座・学科目(C)ならびに個人関係(D)のデータベースとした。これらには、講座・学科目主催の項目の他、個人として学外の計画に協力したものと、個人として本学の計画(大学規模ならびに学部・学科・施設関係)に参加した項目も含まれている。ただし、回答を得られなかった講座もあり、実施した教育サービスをすべてもれなく収録出来ているとは限らない。最近教授が交代した講座などでは、以前の記録が掌握できない場合もあった。回答を得た限りの件数としては583件である。「講座・学科目」での実施計画のものについては可能なかぎり根拠資料等を添付することを求めたが、すでに失われたものも多かった。「個人」については、後の整理の段階で煩雑を極めることが予想されたので、根拠資料等の提出は求めなかった。

なお、アンケート回答のうち、「産学連携」、「国際交流」、「研究の地域貢献」などによりふさわしいと思われた項目については、「その他」の章にまとめて掲げた。また、インターネットの活用については、講座をはじめとする主要な部門はすべてホームページを持ち、情報の一般公開につとめている現状なので、データベースの公開以外については特には記載しなかった。

A. 全学規模

- * 専門家向け(カテゴリー a: 全学・専門家); リカレント教育講座, 科目等履修生の受入れ, 附属図書館の開放, 国際伝統医薬フォーラム
- * 市民向け・専門的内容(カテゴリー e: 全学・市民・専門); 公開講座「健やかに生きるために」, リカレント教育講座, 附属図書館の開放, 大学祭における展示, 高校生への授業公開
- * 市民向け・その他健康関係(カテゴリー i: 全学・市民・健康); 大学等地域開放特別事業「遺伝子研究への招待」, 附属図書館の開放, 大学祭における市民講座

B. 学部・学科・施設規模

- * 専門家向け(カテゴリー b: 学部・専門家); 病院受託実習生の受入れ, 病院研修生の受入れ, 研修登録医の受入れ, 和漢薬研究所特別セミナー, 和漢薬研究所夏期セミナー

- * 市民向け・専門的内容(カテゴリー f: 学部・市民・専門); 医・薬学部一日体験入学, 和漢薬研究所市民公開講座, 施設公開, 臓器移植等に係わるマスコミへの講習会

- * 市民向け・その他健康関係(カテゴリー j: 学部・市民・健康); インターネット上での民族薬物データベース公開, 社会に学ぶ「14歳の挑戦」

C. 講座・学科目関係

- * 専門家向け(カテゴリー c: 講座・専門家; 講座); 公開講座・糖尿病学の進歩, 北信越ストーマリハビリテーション講習会, など
- * 市民向け・専門的内容(カテゴリー g: 講座・市民・専門); 肝臓週間・市民公開講座と医療相談会, アトピー性疾患相談会, など
- * 市民向け・その他健康関係(カテゴリー k: 講座・市民・健康); 耳の日無料相談会, 薬用植物園見学実習・富山県立盲学校, など

D. 個人関係

- * 専門家向け(カテゴリー d: 個人・専門家); 心臓ペースメーカー技師養成のためのセミナー講師, 病院薬剤師のための漢方製剤の知識(放送), など
- * 市民向け・専門的内容(カテゴリー h: 個人・市民・専門); 特定化学物質等作業主任者技能講習会講師, バイオエシックスに関する講演, など
- * 市民向け・その他健康関係(カテゴリー l: 個人・市民・健康); イタイタイ病セミナー講師, 交通事故救命救急法教育講習会講師, など

評価結果

1. 目的及び目標を達成するための取組

富山医科薬科大学においては、「教育サービス面における社会貢献」に関する取組として、リカレント教育講座、科目等履修生の受入れ、附属図書館の開放、公開講座、高校生への授業公開、大学等地域開放特別事業、大学祭における市民講座、病院受託実習生・病院研修生・研修登録医の受入れ、和漢薬研究所特別セミナー、和漢薬研究所夏期セミナー、医・薬学部一日体験入学、和漢薬研究所市民公開講座、各施設の公開、インターネット上での民族薬物データベース公開、各種講習会・相談会、各種セミナー・講習会の講師派遣などが行われている。

ここでは、これらの取組を「目的及び目標を達成するための取組」として評価し、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として示し、目的及び目標の達成への貢献の程度を「貢献の状況（水準）」として示している。

特に優れた点及び改善点等

リカレント教育講座は、生涯学習推進委員会で企画するものと、富山県リカレント教育推進協議会の委託を受けて、大学のリカレント教育運営委員会が企画するものがあり、平成10年度からは年間3・4テーマの講座を開講し、対象も看護婦、製薬会社の研究者、中・高・大学の教職員等の医療・薬業・教育関係者を対象としており、専門職の生涯教育に貢献する優れた取組である。

また、「DNAとバイオテクノロジー」、「富山県糖尿病ナース養成」の各講座は、3年連続で開催し、継続性を持たせたものとなっている点は優れている。

公開講座は、「健やかに生きるために」をメインテーマとし、毎年度「肝臓と病気」、「脳と病気」、「心臓と病気」、「症状からみた消化器疾患」、「日常生活習慣と健康」と様々なサブテーマで実施し、最新の医学・薬学の話題を提供しており、一般市民に健康について考える機会を提供する優れた取組である。

大学等地域開放事業として実施している「遺伝子研究への招待」は、県内の中学生と担当教諭、保護者を対象として、遺伝子実験施設を利用してDNAを取り出す実験など、普通学校では行えない実験等の機会を提供する優れた取組である。

また、平成12年度は応募者数が定員を超えていたため、2日に分けて実施するなど、実施方法に工夫がされている点も優れている。

和漢薬研究所夏期セミナーは、和漢薬の理解を深めてもらうため、和漢薬に興味のある全国の薬学生・医学生を主な対象者として、夏休み期間中に2泊3日の合宿セミナー形式で開催し、また、運営にあたっては、留学生、大学院学生、学部学生も参加させており、実施方法に特色ある取組である。

インターネット上での民族薬物データベースの公開は、和漢薬研究所の保有する生薬資料を、インターネットにより一般用と専門用に分けて検索することが可能となっており、一般用は産地や薬効、適応症等を検索することができ、また、専門用は、一般用の項目のほかに成分や構造式、薬理作用、研究論文一覧等を検索できるようになっており、幅広い対象者に対して生薬の薬効などを紹介する特色ある取組である。

貢献の状況（水準）

取組は目的及び目標の達成に十分に貢献している。

2. 目的及び目標の達成状況

ここでは、「1. 目的及び目標を達成するための取組」の冒頭に掲げた取組の達成状況を評価し、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として示し、目的及び目標の達成状況の程度を「達成の状況（水準）」として示している。

特に優れた点及び改善点等

リカレント教育講座は、平成 8 年度から平成 12 年度までに開催された 13 講座のうち半数を超える講座が定員を満たしておらず、また、アンケート結果からも、理解できなかった者がいるなど、これらの点について改善の余地がある。

公開講座の定員充足率は、平成 8 年度から平成 11 年度までは 90 % 前後で推移しているが、平成 12 年度は約 64 % と大きく減少しており、改善の余地がある。

しかし、平成 12 年度の受講者に対して行ったアンケート結果をみると、受講の動機が「テーマに関心がある」、「毎年受講している」とする者が大半であり、受講後の感想から「理解できた」とする者が 8 割を越えるとともに、実施時期・回数・場所、講義の時間についても、適当と答える者がほとんどであり、理解度、満足度ともに高い点では成果を得ている。

大学等地域開放事業として実施している「遺伝子研究への招待」の受講者数は、平成 11 年度の 17 人から平成 12 年度の 32 人と約 2 倍に増加している点で成果を得ている。

附属図書館の平成 8 年度から平成 12 年度までの学外利用者数は、一般市民が 2,439 人、2,057 人、1,821 人、1,664 人、1,543 人と年々減少している。また、大学関係者以外の研究者の利用者数も 116 人、39 人、35 人、52 人、45 人と減少傾向にある。これらの点について、改善の余地がある。

和漢薬研究所特別セミナーでは、和漢薬に興味を持つ専門職を対象に昭和 56 年から実施しているもので、受講者数は、学内で実施していた平成 8 年度から平成 11 年度までは毎年約 70 人で、富山県民会館で実施した平成 12 年度は 110 人と増加している点は成果を得ている。

また、夏期セミナーでは、毎回 50 人前後が参加しており、参加者のアンケート結果によると、ほとんどの受講者が、参加してよかったとし、講義内容もよかったと答えていることから、満足度が高く優れている。

民族薬物資料館の施設公開については、来館の動機が

「漢方に興味があった」、「自分の病気によい漢方は」、「薬草の成分を知りたい」等で、アンケート結果からは、ほとんどが「説明等がわかりやすかった」と答えていることから、期待度、満足度ともに高く成果を得ている。

また、一般公開のほかに研究者を中心とした見学者を随時受け入れており、平成 12 年度は 464 人で、そのうち 52 人が中国をはじめとする 12 カ国の外国人であり、国際的にも関心が高い点も評価できる。

達成の状況（水準）

目的及び目標がおおむね達成されているが、改善の余地もある。

3. 改善のためのシステム

ここでは、当該大学の「教育サービス面における社会貢献」に関する改善に向けた取組を、「改善のためのシステム」として評価し、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として示し、システムの機能の程度を「機能の状況（水準）」として示している。

特に優れた点及び改善点等

全学的な取組については、生涯学習推進委員会が公開講座、リカレント教育について検討するとともに、生涯教育、大学開放に関わる事項について連絡調整を行っている、また、その他の取組は、各学部・研究所教授会、各附属施設の運営委員会がそれぞれ企画・実施から問題点の把握・改善までを行っている点が、改善に向けた取組として優れている。

取組ごとにアンケート調査などを行い参加者の意見を取り入れているが、「遺伝子研究への招待」、「和漢薬研究所特別セミナー」など一部の取組については、アンケート調査が行われていないものや、「大学祭における展示・市民講座」など参加者数の把握ができていないものがあり、これらの点において改善を要する。

また、参加者以外の幅広い社会のニーズを把握する体制が整備されていない点は改善の余地がある。

機能の状況（水準）

改善のためのシステムがある程度機能しているが、改善の必要がある。

評価結果の概要

1. 目的及び目標を達成するための取組

特に優れた点及び改善点等

リカレント教育講座は、医療・薬業・教育関係の専門職の生涯教育に貢献する優れた取組である。また、「DNAとバイオテクノロジー」「富山県糖尿病ナース養成」の各講座は、継続性を持たせたものとなっている点は優れている。

公開講座は、一般市民に健康について考える機会を提供する優れた取組である。

大学等地域開放事業「遺伝子研究への招待」は、中学生等が普段学校では行えない実験等の機会を提供する優れた取組である。また、実施方法に工夫がされている点も優れている。

和漢薬研究所夏期セミナーは、実施方法に特色ある取組である。

インターネット上での民族薬物データベースの公開は、幅広い対象者に対して生薬の薬効などを紹介する特色ある取組である。

貢献の状況（水準）

取組は目的及び目標の達成に十分に貢献している。

2. 目的及び目標の達成状況

特に優れた点及び改善点等

リカレント教育講座は、半数を超える講座が定員を満たしておらず、また、アンケート結果からも、理解できなかった者がいるなど、改善の余地がある。

公開講座の定員充足率は、平成12年度に大きく減少しており、改善の余地があるが、理解度、満足度ともに高い点では成果を得ている。

大学等地域開放事業「遺伝子研究への招待」の受講者数は、約2倍に増加している点で成果を得ている。

附属図書館の一般市民や大学関係者以外の研究者の利用者数は、年々減少する傾向にある点に改善の余地がある。

和漢薬研究所特別セミナーの受講者数は、増加しており成果を得ている。また、夏期セミナーは、参加者の満足度が高く優れている。

民族薬物資料館の施設公開は、期待度、満足度ともに高く成果を得ている。また、一般公開以外の見学者の受け入れは、国際的にも関心が高い点も評価できる。

達成の状況（水準）

目的及び目標がおおむね達成されているが、改善の余地もある。

3. 改善のためのシステム

特に優れた点及び改善点等

取組ごとに生涯学習推進委員会、各学部・研究所教授会等で、企画・実施から問題点の把握・改善までを行っている点が、改善に向けた取組として優れている。

取組ごとに参加者の意見を取り入れているが、一部の取組については、参加者の意見等が把握されていない点に改善を要する。また、幅広い社会のニーズを把握する体制が整備されていない点は改善の余地がある。

機能の状況（水準）

改善のためのシステムがある程度機能しているが、改善の必要がある。